

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会

洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
 メール
info@hyoufuku.main.jp

阪神淡路大震災から20年が経過しました。震災を契機に建設運動が加速し、立ち上がった念願の淡路ふくろうの郷ですが、未だに何十人も要介護高齢者の方がふくろうの郷に入ることができている日や戸を待っている状況です。また神戸で大きな震災がいつ起こるとも分かりません。そんな時、命を守るために神戸にも高齢者の方が入る人ホームが是非とも欲しいものです。

要支援1・2の方たちにも デイサービス・ホームヘルプサービスを



▲デイサービスがあるから安心して参加できます。(桜ヶ丘でのいきいき百歳体操の様子)

4月からの介護保険制度変更でサービスはどう変わってしまうのか

介護保険制度を維持するためということ、介護保険の制度が大きく後退しました。その一つが、要支援1・2の高齢者は介護保険によるデイサービスとホームヘルプサービスとを使えなくすること、市町村が準備する支援への移行です。移行の最終期限は平成29年とされています。

平成27年度に移行するのは、全国の1579自治体の内114自治体で、わずか7.2%と報道されています。

洲本市の対応は

洲本市の介護保険課によると、「介護保険サービスを外された方の受け皿はまだ決まっていない。そのため、条例を定めるなど、限度年の平成29年までに移行の準備をする」ということで、とりあえずは介護保険でデイサービス・ホームヘルプの利用が続けられるとのこと。

要支援者の安心の支え

高齢者になっても生きがいを持って暮らせるようにと、昨年春に開設した中川原ふれあいセンターの「老人デイサ

ービスセンター桜ヶ丘」では、一月現在で22人の利用者の内、8人が要支援1・2の高齢者です。皆さん、介護保険が使えなくなることです。中川原ふれあい広場・桜ヶ丘で受入れするにしても、命を預かり安全に責任の持てる職員体制が整っていません。

そうした中で、利用者の方々とご家族の不安は大きいものがあります。いきいき百歳体操で頑張っておられる方も、「いずれはデイサービス利用が支えになるから」という安心感が元気の素です。

安心の土台をこわす制度改定は困ったものです。

洲本モデルの「地域包括ケアシステム」を 職員体制についての要望提出

厚生労働省が進める高齢者 洲本市は、この仕組みの一 つとして「中川原ふれあいセ ンター」への期待を表明され ています。

そのためもあり、昨年町内 福祉の地域における自助・互 会と法人の連名で、「中川原ふ れあいセンター」の職員体制を 助の仕組みが「地域包括ケア システム」です。

強化させるための要望」を洲本 市に提出しました。

「洲本市モデルの地域包括ケ アシステム」、このシステムが、 農業や観光などの地域おこし の全体構想に関連付けられる ものとして構築されるよう私 たちが微力ながら頑張りたい 除されないインクルーシブな 地域づくりの推進につながる



▲顔を合わせられるから来たくります (デイサービスセンター桜ヶ丘)



▲今年は玉ねぎ一万個を収穫したい！地域の応援に感謝です (おのころの家)

淡路聴力障害者協会新年会



▲初参加の古家さんと淡聴協の柏木さん

1月31日(土) 淡聴協主催の新年会に淡路ふくろうの郷の入居者も参加してきました。いつもよりほんの少しおしゃべりをして、新しい年、第1回目 目の交流を楽しめました。

入居者の黒崎時安さん達の乾杯の音頭を皮切りにして次々と運ばれてくる豪華な料理に舌鼓を打ちながら、仲間と過ごすひとときに皆さんの笑顔は絶えませんでした。

今年も未年ということだ

路ふくろうの郷の年女をご紹介、兵頭美恵子さんと畠ゆり子さんです。新年会に参加された兵頭さんは会場の皆様にお祝いを贈呈されました。

おめでたい席なこともあって相俣って大変喜ばれていました。(生活支援係 畠田)



今年も一年元気に過ごしましょう！

どんと焼き〜一年の無病息災を祈って〜

1月16日に1日遅れのどんと焼きを行いました。1月14日には、地域交流会の平野さんが竹を立てて準備をしてくださいましたが、予定の15日は雨だったために翌日の16日に順延されました。そのため、残念ながら平野さんにお越しいただけなく、職員だけで行

う初のどんと焼きになりました。前日の雨のせいでなかなか火がつかず困っているところを、入居者の黒崎さんがお手伝い下さり、何とか火を熾すことができました。昨年に地域交流会の皆さんと入居者で作ったしめ飾りや、書初めを燃やしました。



▶ 皆の健康を祈って黒崎さんが大活躍！

火にあたることで一年健康でいられるとの言い伝えから、入居者にも近くにきていただけると良かったのですが、土がぬかるんでいた為に遠くから眺めていただき、職員が代わりにお祈りをしました。

(相談員 竹原)

料理講座と大根まつり&ポン菓子に舌つづみ

1月28日(水)に昨年に引き続き大根まつりを実施しました。地域交流会の平野さんから立派な大根をたくさんいただき、かまどでおでんを作りました。

当日は、料理講座を同時に行い、作業場で入居者が大根や練り物などの下準備をしたり、いちご大福を作ったりしました。準備をしている中、作業場のふくろ



▲いちご大福づくりの様子

流会の皆さんと職員と一緒に火熾しを行いました。大きな鍋に具材を入れて、グツグツと見込んだおでんはとてもおいしかったです。よく味の染み込んだ大根はとろけるようで、入居者も「おいしい！」と大好評でした。



▲味がしみた大根

また、駐車場では、ポン菓子づくりが行われました。北岡さんが手配して、香川県から機械をもってきていただき、パンっと大きな音が鳴るとお米が一気に膨らんで、籠一杯にポン菓

子が広がる様子を見て、「わあっ！」と声があがりました。袋詰めし、入居者のおやつとしてお渡しすると、懐かしい味に喜ばれていました。

(相談員 竹原)



▲駐車場ではポン菓子づくり



▶ 懐かしい！と半田さん

淡路聴覚障害者 センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

昨年10月から洲本市では日常生活用具の制度に「聴覚障害者用映像型通信装置」という新たな項目が加わりました。テレビ電話のことで。今回の社会生活教室ではこの制度とテレビ電話の使い方などを「千里福祉情報センター水野慎吾氏にお話しいただきました。

テレビ電話は声が聞こえない、文字が思うように書けない、意思が十分に伝えられない聴覚障害者にとって離れていても相手に手話で伝えることができる有効な手段の1つです。大阪府岸和田市福祉事務所では設置通訳者が設置され、このテレビ電話が導入され手話通訳者の派遣依頼などがスムーズにできるようになりました。しかし他市では人件費を削るために、設置通訳者をおかずテレビ電話だけを設置し対応してはいますが、ろう者の利用は全くないような状況です。生活実態からかけはなれた言葉の翻訳だけに利用されてはならないと思います。(吉川)

日常生活用具～テレビ電話について学ぼう～

第6回社会生活教室 1月25日(日)洲本健康福祉館



自分だけでなく、自分たちの家族の家にもテレビ電話があると安心。(浦山康雄さん)

持ち運べるといいな。留守の時かかってきても分かるように留守電機能も欲しい。(福永淳子さん)

使い方難しそう。今後、高齢者でも使いやすいようになるのを期待したい。(森智恵美さん)

友達と会う約束をする時、FAXだと返事もなかなかこないときもあるし時間がかかる。テレビ電話だと早くて便利。(巖末子さん)

公的機関や大きなお店にもテレビ電話があると問い合わせの時など便利だなあ。いつでもどこでも手話できる人がいるといい。(伊達美紀さん)

手話通訳者や手話サークルの方にも設置補助がされるようにしたい。(ろう者)

顔が見えると気持ちが近づくと感じた。通訳者として、制度のことなど知識として学べてよかった。洲本市で日常生活用具の中に新しく項目に加わって喜ばしいこと。他の市にも広がればいいですね。(手話サークル 高見恵美子)

手話奉仕員養成講座受講 聴覚障害者関連施設見学

1月22日(木)

淡聴協についてお話しされる齊藤よし子さんと受講者の皆さん



奉仕員養成講座受講者が淡聴協やおのころの家などを見学しました。受講者は「阪神淡路大震災をきっかけにろう者の生活の大変さが分かり施設ができていった。ろうあ協会・手話サークルが力を合わせ市や国にはたらきかけ行動しているのがすごい。」と運動の力を知り、驚くとともに「自分の力でできることから始めたい。」と感想を述べていました。

平成26年度パソコン要約筆記養成講座

洲本健康福祉館



例年、要約筆記奉仕員養成講座を開講していましたが時代の流れもあり、今年度は2年間にわたりパソコン要約筆記養成講座を開催しています。昨年11月より前期の講座がスタートし、11名が受講されました。

「淡路で開催されるとのことだと思い切って受講しました。難聴者や中途失聴者の現状や、要約筆記の基礎知識を学び、要約筆記には幅広い視野が必要だと感じ大変勉強になりました。いつの日かパソコンチームの要員として活動できるように最後までがんばりたい。」と受講者の小西幸子さんが感想と抱負を述べられました。

おのころの家



〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995

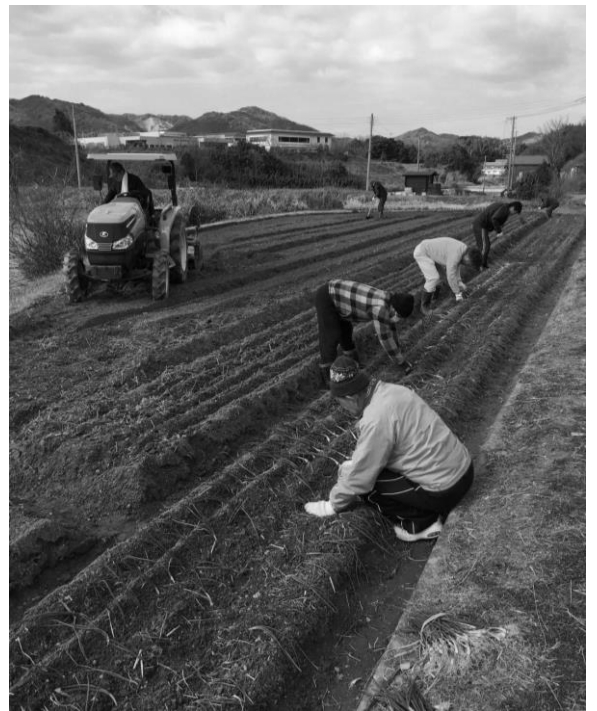
**おのころの家農業日誌⑦
玉ねぎの植え付け**

「玉ねぎを植えて育てよう」と、昨年末から利用者職員の間で話に出ていましたが、玉ねぎを植える場所、苗の準備が年内に間に合わず、年を越してしまいました。

そんな時に、地域交流委員の木村様から、ふくろうの郷、ふれあいセンターからほど近い場所にあるご自身の畑を貸していただけること、ありがたいご提案をいただきました。
草刈りからはじまり、土を耕すにも大きな農業機械がないおのころの家。



玉ねぎの苗を仕分ける作業



▲土がなかなか乾かない中で玉ねぎを植えることに。慣れない作業でしたが畑一面に植えました。

またそんな時に木村様と同じく、地域協力員の井関様からありがたい協力の申し出が。ご自宅からトラクターに乗って来て、畑を耕し畝を作ってくださいました。

畑の準備はできたものの、玉ねぎの苗を植えることも初めての面々。ここはベテランの井関様ご指導のもと、利用者のみなさんは慣れない手つきで一つ一つ大きくなることを楽しみに植えました。

年末から新年早々に雨が多く、泥だらけになりながら、なかなか作業ができない中で玉ねぎの苗植え。
初夏を迎えるころに大きく育った玉ねぎを収穫できるの

か、それともころころと、小さなごだまの玉ねぎばかりになってしまふのか。
中川原町内の皆様に見守られながら2015年、おのころの家の野菜作りののはじまりです。

あんまき作りでも名コンビ



土手さん(左)佐藤さん(右)

1月22日デイサービスのおやつ作りにおのころの家の利用者さんたちが参加しました。
土手さん、佐藤さんは日常の作業でも木工細工等でおのころの家の利用者の下駄箱を作つて下さったり、農作業道具をしまっておくための棚を作つたりされています。
そんな器用なお二人が、おやつのおんまき作りに挑戦。

平成26年度のおたがいさま中川原の活動を報告



▲町内外から28名の方が出席くださいました。

1月25日、ふれあい広場桜ヶ丘でふれあいセンター運営委員、日々協力いただいております応援者、コーディネーターの皆様が集まっていたき平成26年度おたがいさま中川原の活動報告と交流会を開催しました。

事務局から活動の報告では、月間の応援時間が7月と11月に目標としていた100時間を超えることができたこと、応援内容では「付き添い」の応援依頼が増えてきたこと、ふれあい工房桜ヶ丘で石窯を使用したイベントに関する応援が新たに増えてきたことなど報告しました。

土手さんが熱したホットプレートに生地を敷き、佐藤さんが餡をのせてゆきます。

おのころの家の利用者、デイサービスの利用者の方と一緒におやつ作りの時間を楽しめました。

デイサービスとおのころの家の利用者同士の交流をこれからも行い、支援をしたいと思えます。

続々・地域を語る

中川原むかし話 かるた 口説き

北 岡 肇

No.7

か 漢学者・多田鳴鳳 陰陽、五行、易学の泰斗

まずお生立(いたち)から書いていきま

すと、「淡路島の離島三原郡沼島村(南あわじ市)より安坂村(洲本市中川原町安坂)に来往ありしもので、その祖先多田七郎右エ門は、木村長門守の重臣にて大阪城落城の折、長門守より息某を托され遁れて沼島村に來住せしもので、長門守の名を憚り、多田七郎右エ門を以て沼島村に代々庄屋を勤めたもので、鳴鳳は天命4年(1784)に生れ多田家5代にて包助、又は侶助と称して功名千代治、号は國華、六合斎、洋々斎、などがある」

藤江石亭に学び、後皇朝天監、安部朝臣の直弟となり陰陽、五行、家相、易学を學んで司天(天文博士)となり毎年、士御門殿に伺候ありて、その年の吉凶禍福を占し奏上あり

たり、斯道に関する著書多し、総て世に活用されている。

また安坂村の庄屋で狂歌もたくみで、溜池の新築、修築で農業の を努め、官命により農業の調停をも行っていた。

文久3年(1863)10月11日、78歳で没している。現在は絶家となつている」

易学の大家、泰斗となり著書は何度も復刻されています。

▽鳴鳳先生の即席占い
お正月を控えて各家々では祝餅つきが始まった。ところが隣家の源之助さん、セイロで餅米を蒸し出したがいつまで経っても湯気があがらないので、心配のあまり鳴鳳先生に占つてもらつたところ、見てもいないのに見事に即席占いで一同喜んで搗き終えたという。

▽鳴鳳先生の里芋
田舎では芋類や野菜など夜中に人知れず取つてきて会食をする風習がありました。

先生も親しい方を集めて会食を開きました。今夜は里芋汁となり、先生自慢の里芋が掘り取られ、開いた口がふさがらなかつたという。

※参考文献・中川原村史、洲本市史

デイサービスセンター 桜ヶ丘

中川原に生まれ育ち80年、
地域の方と多くの交流を
持たれている

後藤州永さん



後藤様にはふれあいセンターが出来る時から、ご尽力を頂いています。

また、9月から毎週月曜日に仲良しの方達と一緒にデイサービスセンターの御利用をいただいています。

後藤様は趣味が多く短歌に書道、パッチワークや干支の作り物、そして、広告を利用しての爪楊枝入れ、鍋敷き、金魚の飾り物などなど、多くの作品を作られています。

御自宅でコツコツと作られた作品をデイサービスに持って来て頂いては、「ししようもない物だけども」とおっしゃいますが、広く殺

風景なデイサービスルームでしたが、利用者様の作品と、後藤様の作品のおかげで華やかとなつてきています。

また、後藤様から、デイサービスの利用者様に鍋敷きや金魚の折り方を教えて頂いています。その間にも、同じ地域の方とは世間話しや中川原地域の思い出話しを楽しんでされています。

中川原地域の事を知らない私達は話を聞きながら、80年の歴史に重みを感じ、学ばせてもらっています。

デイサービス桜ヶ丘も後藤様に負けじと地域に根差した取り組みが必要になると感じています。(担当:鈴川)



▲デイサービスに飾つていただいている後藤州永様の作品

デイサービスセンター 桜ヶ丘
お問い合わせ先
TEL:07999-281-09993
FAX:07999-281-09992
受付:平日 8時30分
17時30分(土日祝休み)
担当:竹内

いつもご支援ありがとうございます

1月23日(金)地域交流会の皆さんの計らいで大根まつり&ボン菓子実演を行いました。ボン菓子の実演に皆、童心に戻ってはしゃぐ姿が見られました。



作品介绍

1月16日
手芸講座



古家拓哉様 (83歳)